

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和4年9月5日 ※1
(前回公表年月日: 令和4年9月)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																										
東京服飾専門学校		昭和26年9月27日		山下 節子		〒 170-0002 (住所) 東京都豊島区巢鴨1-19-7 (電話) 03-3946-7321																																										
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																										
学校法人池田学園		昭和51年9月10日		野間 憲治		〒 170-0002 (住所) 東京都豊島区巢鴨1-19-7 (電話) 03-3946-7321																																										
分野	認定課程名		認定学科名		専門士	高度専門士																																										
服飾・家政	服飾専門課程		ファッションビジネス科		平成22年文部省 告示第7号	—																																										
学科の目的 学校教育法に基づき、高度な専門知識と技能習得をとおして創造性豊かで人格的にも優れた人材を育成し、ファッション業界全般、 服飾繊維産業界の発展に貢献。																																																
認定年月日 令和2年4月20日																																																
修業年限	昼夜	本課程の修了に必要な総授業時数又は総 単位数		講義	演習	実習	実験	実技																																								
2	年	昼間	1700	757.5	662.5	337.5	0	92.5																																								
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数	総教員数																																							
100人		78人		1人		17人		12人	29人																																							
学期制度	■前期 (4/11～7/27) ■後期Ⅰ (9/1～11/30) ■後期Ⅱ (12/1～3/3)				成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 授業態度・課題及び筆記試験 評価の方法: 授業担当教員による10～6段階評価																																										
長期休み	■夏 季: 7月28日～8月31日 ■冬 季: 12月24日～1月10日 ■春 季: 3月4日～4月6日				卒業・進級 条件	卒業要件: 1700時間以上の履修時間を修めていること、及び各科目の総合評価が6以上で 進級要件: 850時間以上の履修時間を修めていること、及び 各科目の総合評価が6以上であること。																																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人連絡、個人面談 長期休暇期間補習・補講				課外活動	■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 現場・企業研修・インターンシップ 部活・サークル活動 ■サークル活動: 有																																										
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド、 株式会社TSJホールディングス、株式会社キャン、株式会社アズノウアズ株式会 社 ストライプインターナショナル、上野商会、株式会社diesell ■就職指導内容 就職ガイダンス授業を1年次より行い、毎回企業人事、OBOGを招いての講演会 や合同説明会への参加を行っている。またアウトソーシングで、人材教育トレー ナーを招いての採用試験準備も行っている。 ■卒業者数 : 43 人 ■就職希望者数 : 35 ■就職者数 : 25 人 ■就職率 : 71.4 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 58 % ■その他 : (令和 3 年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)				主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>色彩検定</td><td>③</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>ファッション</td><td>③</td><td>3</td><td>2</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する か記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 0			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	色彩検定	③	1	0	ファッション	③	3	2																												
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																													
色彩検定	③	1	0																																													
ファッション	③	3	2																																													
中途退学 の現状	■中途退学者 11 名 令和3年4月1日時点において、在学者99名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者88名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 一身上の都合、進路変更、就職 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生相談、随時転科、転科コース変更制度、再入学制度によるフォローアップ				■中退率 11 %																																											
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 推薦入学者には、特典として後期授業料から10万円免除(但し、前期総合成績がクラス平均点以上、1科目の出席が前期授業日数の65%以上の者) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0																																															
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 0 受害年月: 0 評価結果を掲載した ホームページURL 0																																															
当該学科の ホームページ URL	https://www.tfac.ac.jp/course_post/ファッションビジネス科/																																															

(留意事項)

2. 就職等の状況(※2)

3. 主な学修成果(※3)

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校での教育理念にもとづいて、これまでにインターンシップや年間3,000件ほどの実務体験(現場研修)などで連携協力関係を築いており、さらに連携事業として企業の人材育成のプログラムの各科目への導入をおこなってきている。
また科目ごとの教職員、指導内容の作成や評価について助言や協力をいただき、現在の実務の現場で必要とされる人材育成や学科編成における将来の目標目的設定に重要な関係であり、将来の業界を担う人材育成に手厚い協力をいただいている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校での教育課程編成委員会は学科別授業計画の作成を行う教務部に対して直接に助言や提言を行う位置付けとして、設置している。教育課程編成委員会は産学連携の強化と実技実習教科の充実を図ることを目的として、平成29年度より設置。企業等委員と各学科長、教員により組織している。教育課程のカリキュラムの編成、実施状況、成果の確認、改善点について関連分野の企業・団体等からの委員の参画によって業界の現状動向を踏まえた助言や将来的な人材教育の協力機関として教育課程編成委員会を置いている。教育課程編成委員会は、前期修了後(8月)と、年度末(3月)に開催し、それぞれの回において、該当年度の検証や実施結果の反省を行い、翌年度の改善点、習得目標の設定を検討する。委員会の結果は各科教務においてまとめられ、次年度計画会議において校内のバランスや連携を図りながら導入目指し、次年度のカリキュラム編成や各科目のシラバス作成を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年8月20日現在

名 前	所 属	任期	種別
上山 健二	日本アパレル・ファッション産業協会繊維ファッション産学協議会	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
岩田 佳典	一般社団法人 日本モデルエージェンシー協会 理事長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
伊藤 昭	株式会社ステップス 代表取締役	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	②
中村 潤	株式会社アズノウアズ 人事・総務部部长	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	②
山下 節子	池田学園 校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
副田 勝久	池田学園 教務 就職担当	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
吉岡 文子	池田学園 教務 ファッションビジネス科教諭	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
山内 講平	池田学園 教務 ファッションビジネス科教諭	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、3月)

(開催日時(実績))

第6回 令和2年度 3月1日 新型コロナウイルス感染症の流行により、外部委員への文書による聞き取りを行う

第7回 令和3年8月4日 15:30～17:00

第8回 令和4年3月16日 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

企業委員からは就職を念頭とした一般常識やビジネスマナーの強化に必要性についての訴え、また個々の学生における希望に沿った実務経験機会の創出などがあがり、次年度においては産学連携、校外体験実習などを通してマナー、社会常識、コミュニケーション力の向上に資する内容を盛り込み、さらに教科「就職ガイダンス」においても科目シラバスに取り組むこととした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

当学科での産学連携での実習・演習授業については、職業意識を持つことを目標に、1年次から企業からの講師を招いた授業を行い、職業意識と基本技術を習得した段階での、2年次からは連携企業からの実務担当者による現場課題をもとにした実習、演習を行う事にしている。企業の現場での実習、演習が単なる体験とならぬように、プロセスの理解や現場で活かせる技術の向上を期待している。円滑な企業連携授業の展開、評価基準や学生の習熟度向上において本校教員が常にサポートする体制で行うこととしている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ファッションビジネス科においては将来の就職目標としてMD、バイヤー、マーケティング、PR、販売職を設定しており、ファッション業界の仕組みや企業の業態などを理解し、職種ごとに必要な技能の取得につなげるための授業課題や実務研修、インターンシップで企業との連携を年間を通して図っている。個々の学生評価についても課題内容の理解度、提出課題の内容、課題評価点そのものを参画企業担当者との合同成績会議をひらいて教科担当の教職員が聞き取り、校内で定められた評価項目を10段階評価の一部として成績に取り入れている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
職業実践講座(1年生)	販売職を念頭にした、スキルやビジネスマナーについて実習を中心に指導を行う。	株式会社アズノウアズ
職業実践講座(2年生)	企業からの講師による実務に則した知識と技能の指導をもとに実務に対する理解と各自の特性や目標設定に資する課題を行う。(株)キャンとの連携においては、マーケティングから出店計画、店舗設計まで「買いに行きたくなくなるお店」を企画提案する。	株式会社キャン
職業実践講座(2年生)	企業からの講師による実務に則した知識と技能の指導をもとに実務に対する理解と各自の特性や目標設定に資する課題を行う。(株)ベネフィットとの連携においては、実務に沿った商品企画を行い、企業プレゼンテーションで流通商品の企画を作成した。	株式会社ベネフィット
職業実践講座(2年生)	企業からの講師による実務に則した知識と技能の指導をもとに実務に対する理解と各自の特性や目標設定に資する課題を行う。(株)キャンとの連携においては、マーケティングから出店計画、店舗設計まで「買いに行きたくなくなるお店」を企画提案する。	株式会社キャン

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 年度計画に基づいて講師を招いた勉強会やセミナー、業界団体の研修会への参加を計画している。個々の教員に対しても必要性や自主的な指導力向上などの目的で参加する研修やセミナーなどの費用は学園が負担し、勤務時間の調整などについても受講が出来る環境を整えている。ファッションビジネス科ではアパレル業界で幅広い複数の職種への就職を念頭とする学科であり、授業では商品企画力や市場の理解、収益の出し方や販売サービスに必要な技術力などの幅広い知識を必要とする学科であり、それぞれに実務に沿った内容が必要となることから、市場動向やトレンドの情報収集においては企業講師を招いた研修やワークショップ、業界団体のセミナーへの参加、展示会でのヒヤリングなどの機会でも最新の情報収集を行っている。また指導力の向上については学生とのエンゲージメント術などのトレーニングとして外部専門家講師を招いた研修を行い指導方法の質の向上を図っている。 これらの職員研修は職務規定に付属する教員研修規定に沿って、校長・理事長をはじめとする上級職員において、全ての教職員へ受けさせることを義務としている。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	アパレル業界研究	連携企業等: TSIグループ
期間:	2021年4月14日	対象: 関係教職員
内容	業界の動向、採用求人の傾向。	
研修名:	アパレル業界の仕事について	連携企業等: 株式会社アストリア
期間:	2021年5月25日	対象: 進路指導教職員
内容	就職指導における、アパレル業界の動向把握と人事人材キャリアプランについて。	
研修名:	アパレル業界の魅力	連携企業等: 株式会社ステップス
期間:	2021年6月11日	対象: 進路指導教職員
内容	就職指導における、アパレル業界の動向把握と人事人材キャリアプランについて。	
研修名:	織研新聞社ファッションECサミット	連携企業等: (株)フレイド (株)アダストリア
期間:	2021年6月24日	対象: ファッションビジネス系教職員
内容	ECを中心としたファッション業界のネットコミュニケーションの実例と顧客作りのデジタル施策を学ぶ。	
研修名:	国際雑貨 EXPO ライフスタイル WEEK 夏 セミナー	連携企業等: 株式会社パル
期間:	2021年7月2日	対象: ファッションビジネス系教職員
内容	商品開発力と商品短期サイクル、SNSの発信等に力を入れてコロナ禍でも成長する小売企業の戦略を探り、ビジネス系授業に役立てる。	
研修名:	アパレル業界研究	連携企業等: 株式会社ユニクロ
期間:	2021年7月6日	対象: 進路指導教職員
内容	就職指導における、アパレル業界の動向把握と人事人材キャリアプランについて。	
研修名:	合同教員研修会	連携企業等: 学内教職員間研修
期間:	2021年8月18日	対象: 全教職員
内容	指導力の向上のため、前期授業の反省と模擬授業シミュレーション。	
研修名:	ビジネス系教員研修会	連携企業等: 学内教職員間研修
期間:	2021年8月21日	対象: ファッションビジネス系教職員
内容	教科、指導内容確認、授業シミュレーション	
研修名:	ファッションワールドセミナー	連携企業等: (株)アダストリア (株)ニ井物産
期間:	2021年10月18日	対象: ファッションビジネス系教職員
内容	デザイン、ビジネス系授業に必要な「ファッション市場の動向と消費者行動変化」	
研修名:	ビジネスマナーに関するセミナー	連携企業等: 株式会社b.x.store
期間:	2021年11月22日	対象: ファッションビジネス系教職員
内容	ビジネスマナーをロールプレイを通じて習得し、指導に活用できるようにする。	
研修名:	アパレル企業8社合同セミナー	連携企業等: アパレル企業8社
期間:	2022年1月20日	対象: ファッションビジネス系教職員
内容	就職指導における、アパレル業界の動向把握と人事人材キャリアプランについて。	
②指導力の修得・向上のための研修等		

研修名:	新しい価値を創造する力を育む専門学校教育	連携企業等:	アドビ株式会社
期間:	2021年8月15日	対象:	関係教職員
内容	これから社会で活躍する学生がこの時代の未来を切り拓き、また `世の中になく価値を 創造する力を育む教育について考える。		
研修名:	就職等進路に関するセミナー	連携企業等:	公益社団法人 東京都専修学校各種学校協
期間:	2021年9月30日	対象:	就職担当
内容	「コロナ禍におけるオンライン就活ノウハウ・二極化が進む学生対策」		
研修名:	DX化授業	連携企業等:	株式会社アイリスオーヤマ
期間:	2022年3月18日	対象:	全教職員
内容	インタラクティブボードを使用した授業、ipadを活用した授業方法を習得する。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ファッションワールド東京	連携企業等:	(株)アダストリア (株)ワールド
期間:	2022年4月6日	対象:	関係授業担当教職員
内容	「ファッション市場の動向と消費者行動変化」、「最新トレンド分析情報収取」		
研修名:	国際雑貨 EXPO ライフスタイル WEEK 夏 セミナー	連携企業等:	株式会社アーバンリサーチ
期間:	2022年7月6日	対象:	関係授業担当教職員
内容	サステナビリティ・ファーストな経営を志向するアパレルが増えている。その目的と戦略を学ぶ。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	DX化授業	連携企業等:	株式会社Too.
期間:	2022年4月7日～4月29日	対象:	全教職員
内容	授業への学生iPad活用方法、およびDX連動。		
研修名:	価値観を引出し活かす学生指導研修	連携企業等:	株式会社働く君と
期間:	2022年7月	対象:	全教職員
内容	コーチング理論、自己実現。		
研修名:	合同教員研修会	連携企業等:	学内教職員間研修
期間:	2022年8月	対象:	全教職員
内容	指導力の向上のため、前期授業の反省と模擬授業シミュレーション		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本項では平成28年度より、運営部の直下組織として自己評価委員会と並んだ位置付けで学校評価委員会を設置している。委員会は教務部より上位に位置する自己評価委員会の評価報告をもとに、透明性と公平性の為に学外からの委員を組織して自己点検・自己評価の検証と確認、必要に応じては助言や改善提案を行なっている。学校評価委員会での結果は運営部で取りまとめ、理事会でも報告される。報告後は本校の教育理念や目標と学校評価規定に照らし合わせて次年度の学校運営に反映して、公表する運びとなっている。委員については運営部が学外の関係者から選考し、学校長・理事長の承認を受けて委託を行なっている。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	A 学校の理念に基づいた教育が行われているか B 学校における職業教育の特色は何か C 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱えているか D 学校の理念・目的・育成・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか E 各学科の教育目標、育成人材像は、業界の人材ニーズに向けて方向づけられているか
(2)学校運営	A 目的等に沿った運営方針が策定されているか B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか C 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか D 人事、給与に関する規定等は整備されているか E 教務・財務当の組織整備など意思決定システムは整備されているか F 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制は整備されているか G 教育活動に関する情報公開が適切になされているか H 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	A 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか B 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか C 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか D キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか E 関連分野の企業・関係施設棟や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか F 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか G 授業評価の実施・評価体制はあるか H 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか I 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか J 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか K 人材育成目標の達成に向け、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか L 関連分野における業界等との連携において、すぐれた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか M 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか N 職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	A 就職率の向上が図られているか B 資格取得率の向上が図られているか C 退学率の低減が図られているか D 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか E 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか

(5)学生支援	A 進路・就職に関する支援体制は整備されているか B 学生相談に関する体制は整備されているか C 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか D 学生の健康管理を担う組織体制はあるか E 課外活動に対する支援体制は整備されているか F 学生の生活環境への支援は行われているか G 保護者と適切に連携しているか H 卒業生への支援体制はあるか I 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか J 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか C 防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	A 学生募集は、適正に行われているか B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか C 学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか B 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか C 財務について会計監査が適正に行われているか D 財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	A 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか C 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか D 自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	A 学校の教室資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか B 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか C 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	A 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか B 留学生の受入れ・派遣、在籍管理棟において適切な手続き等がとられているか C 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

第7回「学校関係者評価委員会」での意見を取り入れた方策実施を含む自己点検・評価報告書を資料として、関係教職員も参加した学校関係者評価委員会を開催し、外部評価を実施した。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
上山 健二	繊維ファッション産学協議会 理事長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	関連業界委員
齋藤 雅久	日暮里繊維組合 理事長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	関連業界委員
池田 竹谷	(株)オルウェイズ	令和4年4月1日～令和5年3月31日	企業等委員
山下 敏秀	(株)たかくら新産業	令和4年4月1日～令和5年3月31日	企業等委員
若林 由美	高知大学	令和4年4月1日～令和5年3月31日	教育関係
若林 京子	保谷中学校	令和4年4月1日～令和5年3月31日	教育関係
大森 正樹		令和4年4月1日～令和5年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(○ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL:

URL:<https://www.tfac.ac.jp>

公表時期:

公表時期: 令和4年9月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の取り組みや、日常からの教育活動、学生の様子、社会貢献、就学成果などの多くの情報公開については、毎日ホームページやSNSを更新して行っており、各種委員会の開催だけでなく日頃からの教職員との交流、意見交換、学校評価の場として企業懇親会を年に一回開催して開かれた学校運営を目指している。また自己評価、学校評価について包み隠さず公開し、各種委員や企業の方々に正しく判断出来るように情報を提供している。具体的な公開方法は以下の方法で行なっている。

①パンフレット広報物(毎年3月末～)の配布

②広報誌(年4回発行)の配布

③ホームページ(毎年3～9月までに順次基本情報を更新) 広報誌等の刊行物

④企業懇親会(年1回)の開催

⑤企業との相互訪問

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念／教育目標
(2)各学科等の教育	定員／カリキュラム／進級修業卒業要件
(3)教職員	教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	インターンシップ・研修／実践的職業教育への取組
(5)様々な教育活動・教育環境	インターンシップ・研修／学内学外イベント行事
(6)学生の生活支援	就職支援／校内報／サークル活動
(7)学生納付金・修学支援	奨学生進学制度
(8)学校の財務	資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、人件費
(9)学校評価	自己点検自己評価報告書／学校関係者評価
(10)国際連携の状況	留学生受け入れ
(11)その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(○ホームページ ・ ○広報誌等の刊行物 ・ その他(SNS))

URL: <https://www.tfac.ac.jp/>

公表時期: 44652

授業科目等の概要

(服飾専門課程ファッションビジネス科)													
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所	教員	企業等 との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	
1	○		ファッション ドローイング	初期修練としてデッサンを行うことで、構図バランス・造形力・視覚的感性の向上をはかり造形バランスの感覚やセンスを磨く。ファッションスタイル画画力のアップ、描画テクニックと表現力を身につける。	1・前期	33				○	○	○	
2	○		カラー	AFT色彩検定3級公式テキストを使用し、3級の取得を目指すことを主目的とし、実務にむけたイメージに合わせたカラーコーディネート、パーソナルカラー(人それぞれに似合う色)概論を学ぶ。	1・前期	35		○			○		○
3	○		ファッション 素材学	アパレル製品の素材としての繊維、糸、生地を理解し、製作、販売、衣生活に役立てる。素材組成から各種素材、織、柄名称、素材加工、取り扱い方	1・後期	60		○			○	○	
4	○		服飾技術実習	平面で製図したものが、用布を裁断・縫い合わせ・立体化して着用する服となっていく工程の理解と縫製仕様の習得	1・通年	470				○		○	
5	○		ドレーピング	平面製図でおこなっていたものを、立体ボディーを使用し、実際の布(シーティング)をあてダーツをとる事によって、実際のフォルムに合わせていきパターンの仕組みを理解する。	1・通年	85				○	○		○
6	○		服飾史	古代から現代までの洋服の歴史を知る。素材から形まで	1・前期	35		○			○	○	
7	○		就職ガイダンス	就職に関する基本姿勢を醸成、対応策についてガイダンス	1・後期	60		○			○	○	
8	○		デザイン演習	体験実習を通してデザイン、デザイナーについての基礎知識や作品製作技術を身につける。	1・後期	53			○		○	○	
9	○		Mac演習	Macを使用したグラフィックソフトの技術取得 イラストレーター・フォトショップの初～中級操作と実践、パワーポイントを使ったプレゼンテーションツール作成 各ソフトウェアの連動操作取得	1・通年	95			○		○	○	
10	○		テクニカル工芸	立体スモッキング・つまみ細工・草花・装花 コルセット／帽子／編み物 装飾テクニック習得	2・通年	85				○	○		○
11	○		職業実践講座／工業ミシン	服飾の企画・製造・販売を行なっている企業との連携。工業ミシンを用いて各種部分縫いを製作し、就職後に必要な知識とスキルを身につける。	2・通年	85		△		○	○		○
12	○		卒業製作実習	卒業制作ファッションショー衣装制作 衣装のフォルム、バランス感覚を掴む	2・後期Ⅱ	105				○	○	○	
13	○		服飾製図	アイテム製図、制作構成 素材の適応性を学ぶ また、軽衣料 中衣料、重衣料の製図を順番に学ぶ事で理解を深め、応用力を付ける	2・通年	185				○	○	○	
14	○		就職キャリアデザイン	自己理解、仕事理解を通して自分のキャリア形成を考える	2・前期	38		○			○	○	
15	○		卒業製作ファッションショー制作実習	卒業修了ショーに向けた作品テーマ、カテゴリー企画。グループワーク。	2・前期	35				○	○	○	
16	○		衣装製作実習	衣装製作者、衣装デザイナーとしてのスキルを磨く 衣装のフォルム、バランス感覚を掴む	2・前後期Ⅰ	238				○	○	○	
17	○		生産技術実習	服が出来上がるまでの工程を理解するため、デザイン、パターン、縫製までを行い、その工程の中で必要な縫製仕様書、原価計算を行い、上代設定までの流れを習得する。	2・通年	95				○	○	○	
18	○		PCワーク	Windowsパソコンの操作方法と、ビジネスソフト(Word・Excel・Powerpoint)の使い方を習得する。基本的なタイピングからWordを使った文章作成技術を習得。Excelを使って表やグラフの作成技術を習得。Powerpointを使ってプレゼンデータを作成し、効果的なプレゼンテーションを行うことを目指す。	2・後期	60			○		○	○	
合計					18	科目	1850 (単位時間)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：1700時間以上の履修時間を修めていること、及び各科目の総合評価が6以上であること。		1 学年の学期区分	3 期
履修方法：対面90%、オンライン10%		1 学期の授業期間	13 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。